

國弘正雄著「國弘正雄の英語の学び方」たちばな出版、2006年1月31日刊を読む

I. 國弘流「英語音読法」とは

1. (1)①ひと通り意味のわかった英文を、ひたすら音読する。
②これが私の提案する國弘流「英語音読法」です。
 - (2)①そして、この音読法を私は「只管朗読^{しかんろうどく}」と名づけ、普及につとめてきました。
②この「只管」とは、鎌倉時代に禅宗の一派である曹洞宗を開いた道元禅師の教え「只管^{たご}打坐」(とにかく黙って座りなさい)という悟りになっています。
 - (3)①さまざまな誘惑に負けて回り道をするのではなく、英語とまっすぐ向き合っ声を出して読む。
②そのような基本作業こそが、実はすべてのテクニックをこえた大きな効果を持つのだということ、この「只管朗読」という四字のこばに込めて表現しています。
③おかげで、最近では、この只管朗読ということばは、通訳など英語を使いこなす職業の方々の間でかなり定着しており、うれしく思っています。
2. (1)①私の経験談ですが、英語を習い始めた中学一年生のとき、日本は第二次世界大戦のまっただ中でした。
②恩師の木村武雄先生が「英語を習ういちばんよい方法は、中学一年のリーダー、さらに二年・三年のリーダーを声を、出して繰り返し読むことだ」と教えてくれました。
 - (2)①戦争中だったので、今とは違ってテレビやラジオの英語講座などはありません。
②また、英語は敵性言語(敵国のことば)だったので、扱いも悪かったのです。
 - (3)①しかし、教科書だけはありません。
②そこで私は、先生の言われる通り素直に実行して、教科書を声に出してひたすら読みました。
③たぶん、ひとつのレッスンについて平均二百～三百回ほど読んだと思います。
3. (1)①そして、戦争が終わったのは中学三年生のとき。当時は神戸に住んでいました。
②米軍が進駐してきたのですが、興味半分に自分の勉強してきた英語を使ってみようと彼らに話しかけたところ、なんとこちらの言うことが相手に通じるだけでなく、相手の言うことも驚くほどわかったのです。
 - (2)①この個人的な体験こそが、私を世界にはばたかせ、世界の歴史に名を残す偉人達のコミュニティに参加することができるようになった、大いなるきっかけだったのです。
②私は「声を出し、繰り返し読むことこそが外国語を勉強するうえで、もっとも効果的な方法である」と確信し、その後も実践してきました。
③國弘流「音読法」は学習方法としては非常にシンプルで、お金もかかりません。
○また、いつでもどこでも場所や時間を自分で自由に決めて、自分一人で行うこともできます。

4. (1) 確かにネイティブ・スピーカーのお手本として CD などの音声素材は必要ですが、テキストや CD を不必要にたくさん買いこんだり、高い料金の英会話学校に行かなくても、中学レベルのテキストが一冊、あとは自分のやる気さえあれば、今からでもすぐにはじめられる勉強法なのです。
- (2) 英語を上達させるためには、「ひたすら音読」することです。繰り返し読んで努力をする。外国語学習の原点はそこにあります。

國弘流鉄則

英語を「只管朗読」※することこそが、英語を習得する唯一の道である！
(※ひと通り意味のわかった英文を、ひたすら音読すること。)

II. 英語学習は、楽器やスポーツと同じ

1. (1) 「ことば」というものは、みんな自然に使っているものだから、すぐに習得できるはずだと錯覚してしまいがちです。
- (2) ①しかし残念ながら「自然に」使えるようになるのは、自分が生まれ育った国のことば「母語」だけです。
- ②母語ではない外国語を習得し、「すぐに」「自然に」使えるようにはなりません。
- (3) ①みなさんは、突然、逆立ちで歩けますか？
- ②よっぽど訓練している人でないとできませんよね。それと同じです。
2. (1) ことばを習得するということは、原理として、楽器やスポーツの習得によく似ています。
- (2) ①たとえば、野球やテニスなどをやっている人は「素振り」の練習をしますね。
- ②「素振り」は、みなさんご存じのように、実際の球を打つわけではなく、ただ一人でバットを何回も振るだけの基礎練習です。
- ③メジャーリーグで活躍するイチロー選手や松井秀喜選手でさえも、この素振りを毎日欠かさず行っているといいます。
- (2) ①「単純なことを繰り返す」ということは、時間のムダでつまらない作業に思えます。
- ②しかし、続けることで基本的な型を体にすり込ませて体で覚えることができる、とても大切な作業なのです。
- ③プロのピッチャーが投げる 150 キロのボールを、野球の初心者が打ち返せますか？打てるわけはありませんね。
- (3) ①バッティングの基本動作を体が覚えているプロだから、打ち返せるのです。
- ②英語学習はスポーツと同じで、コツコツと努力をして基礎的な型を体にたたき込む(練習)ことが大切。
- ③そこからやっと会話・聞き取りなど(試合)ができるようになるのです。
3. (1) もうひとつ「ピアノの演奏」にたとえてみましょう。
- (2) ピアノが弾けるようになるには、まずピアノの先生と向き合い、楽譜の読み方など理論的なことを勉強しなければいけません。

(3)①しかし、理論的なことをノートに書いていくら勉強しても、ピアノが弾けるようにはなりませんね。

②実際にピアノが弾けるようになるためには、音符を見ながら正確な音楽理論にそって、鍵盤の上で指を何十回も動かす作業をして、手に覚えさせる作業が必要になります。

4. (1)①英語学習も同じです。

②ノートに理屈ばかりを何十回も書くだけでは、楽譜だけを学んで鍵盤をたたかずにピアノを弾こうとしているのと同じです。

(2)「理屈」や「ルール」というものは、身体機能として体に覚えさせてこそはじめて役立つのであり、机の上で学んだ知識だけでは、知っているだけで使えないただのうんちくになってしまうのです。

(3)そこで、「英語をひたすら音読することによって、理屈を体に内在化させる」ことのできる「只管朗読」を私は提唱するのです。

國弘流鉄則

外国語を使いこなすためには、理屈を知るだけの勉強では無意味。
音読を通じて「体にすり込む」ことで使える機能に変わる！

Ⅲ. 学校英語をバカにしない

1. (1)英語の教科書をつくる作業ほど、たいへんなものはありません。

(2)①書店ではたくさんの英語の教材を見かけますが、教科書ほど膨大な時間と、人々のエネルギーが費やされているものはないでしょう。

②基本単語や文法構文など、すべてが網羅されている、すぐれた英語教材です。

2. (1)前にも述べましたように「英語はスポーツや楽器と同じ」で、コツコツと練習して積み上げるものです。

(2)中学一年の英語が身についていれば、中学二年の英語の勉強は順調に取り組めます。中学二年の英語が身についていれば、中学三年の英語の勉強に順調に取り組めます。

(3)そういうサイクルで高校三年まで英語を身につければ、これはかなりの実力になります。

3. (1)しかし、いろんな事情で、歯車はどこかで狂ってしまいがちです。

(2)「この教科書は終わりました」と、学校で先生がおっしゃっても、決してすべてが自分の身についたわけではないでしょう

(3)①それを避けるには、教科書を繰り返し音読し、習熟度を高めておくことが大切です。

②最終的には、かけ算の九九のように、スラスラいえるようになるといいでしょう。

4. (1)「コツコツと音読を繰り返して、気がいたら教科書の英文がすべて復唱できるようになっていた」

(2)そう感じる事ができれば、その教科書に出ている「単語」「熟語」「文法」「構文」など、

すべての理論を身体機能として使いこなせる状態が完成したといえます。

(3)①また、英語学習に関しては、ただ多くのものに取り組むよりは、学校の教科書のような良質な教材を何十回、何百回も繰り返し読むことが最も効果的です。

②「多読する読み質を重視」した姿勢でのぞみましょう。

5. (1)英語を習得するには、なにも「特別なこと」や「奇抜なこと」をしなくてもよいのです。

(2)テレビや雑誌などで、さまざまな英語学習方法が提案されていますが、それを手当たり次第やってみたところで、英語が身につくとは限りません。

(3)また、中学の教書レベルの英語にも習熟していないのに、やれ英字新聞だ、やれディベートだ、やれ同時通訳だといっても、砂の上に建物を築くようなものです。

6. (1)①もちろん、中学の教科書さえマスターすれば、日常会話も、同時通訳も、ビジネス英語もできるようになるというわけではありません。

②高度な技能を身につけるためには、さまざまな語彙や技術を習得する必要があります。

③しかし、土台ができていないのに技術が習得できる、ということはありません。

(2)中学の教科書の習得は立派な建物をつくっていくための「土台づくり」なのです。

(3)①音読の訓練には、「中学、高校レベルのテキストが最高の教材」だといえます。

②しかし、私はそれだけをやればよいといってるわけではありませぬので、誤解しないでください。

③あくまでも、高度な技術を展開する土台づくりのために必須だといっているのです。

國弘流鉄則

中学、高校の教科書の英文は、必須事項が網羅されており、

只管朗読において最高の教材である。

英文を覚えてしまうくらいまで繰り返し音読すべし！

<コメント>

(1)2025年度開倫塾では「セミナー指導」「個別指導」「オンライン指導」「自学自習」のすべてにわたり、学校の英語の教科書を開倫塾に持参、指導いたします。

(2)そこで大切なのは「学校教科書」や「開倫塾テキスト」一度解いた問題文を含め、「内容」が「理解」できた「英語」はひたすら「音読練習(発音練習)」を繰り返し、すべて身につけることです。

(3)開倫塾が最も大切にしていることは、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」つまり、「深い理解」です。英語を学ぶときに「学んだ英語を自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ようになる最も役に立つ方法が、國弘先生の説かれるこのひたすら「学んだ英語を読む練習」です。

2025年3月13日